

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2018年5月-2) 第97号

活動日 2018年 5月 20日(日)	時間 9:30~12:00	天候 (晴)	記録者 (菅田)			
公募参加者 11 家族 34 名 スタッフ 10 名	(スタッフ) 磯野彰夫 菅田忠志 松本治美 小林澄夫 俵貴志子 橋野美子 山田喜義 田路義弘 塩ノ谷年子 (本部) 増井理事					
親子カブトムシ生育観察会(2018年第1回 幼虫観察)						
今回実施した 内容	<p>親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募した 2018 年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は 3 回シリーズの 1 回目。</p> <p>幼虫観察(幼虫探し)と、見つかった幼虫を林内の「観察小屋」へ引越し、小屋内で生育場所兼今年の成虫の産卵場所として子どもたちに仕上げてもらう。</p> <p>また、見つけた幼虫を 2 匹ずつ自宅飼育用に持ち帰ってもらった。</p> <p>余った時間で小枝を使った『バードコール』を作ってもらいおみやげにした。</p>					
写真記録						
  						
受入準備		スタッフミーティングで最後の確認				
  						
参加者が集まりはじめる		受付開始				
 						
色分け名札用紙に自分たちで名前を記入						



はじめるよ～



オリエンテーションで今日の説明。今回は11家族34名の参加



里山に棲むカブトムシの一生の話から観察会がはじまる



”安全第一“とヘルメットを配って着用してもらう



A班とB班に分かれて幼虫の育つ場所へ



木枠を外したら入って探すんだよ



幼虫探し開始！



はじめは少しぎこちなく、おっかなびっくりだった子どもたちもどんどん見つけはじめる





見つけた幼虫は、観察小屋へ引越しさせ、そこでサナギ～成虫になる。



昨年度に完成させた観察小屋

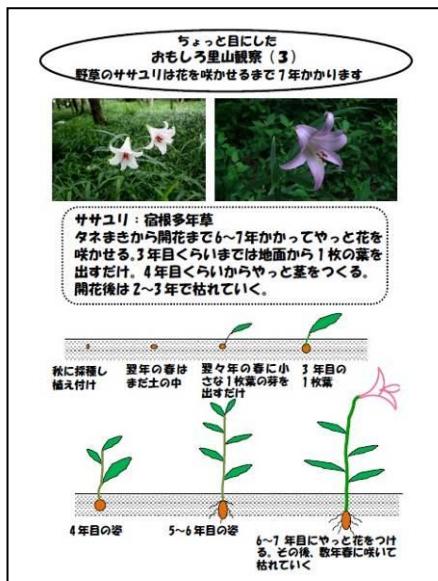
みんなで何匹くらい引越しさせたかな？子どもたちも頑張って2～往復していたので 150～180 匹くらいはいたことになる。



観察小屋内の生育木枠にどんどん引越してくる幼虫たち



水のみ休憩を兼ねて涼しい木陰で「楽しい里山の生きものたち」のお話を…。



- (1)きれいな花を咲かせるササユリも、種から芽を出して花を咲かせるまでには7年もかかること
- (2)ジャコウアゲハは、幼虫の段階からアリマウマノスズクサという毒草を食べ、鳥から身を守っていること
- (3)ハイイロチョッキリという昆虫は、コナラのドングリに卵を産み付けてから、葉の付いた小枝をかみ切ってヒラヒラゆっくり落とし、幼虫はどんぐりを食べて大きくなり、成虫になって出てくることなど

【工作: バードコールをつくろう】

乾燥させておいたヤブツバキの小枝で「バードコールづくり」に挑戦。





ノコで切った小枝に穴をあけてもらう。
随分くっついて並んでるなあ。姉妹かな？

あいた穴にアイボルトをねじ込んでいくと、摩擦音でキュツ キュツと鳴きだす。うまくできると小鳥にそっくりの鳴き声も…。うまく鳴きだしたかな？

【今回はおみやげに幼虫 2 匹ずつ】



持ち帰った幼虫はしっかり
世話をするんだよ。
次回 7 月 22 日のときに様子
を聞かせてください。



ふりかえりシートもしっかり書いてもらった



おわりの会
この次の 7 月 22 日成虫観察では、今日引越しさせた幼虫がしっかり成虫に育っている。お楽しみに。

次回の案内書を配るのでよく読んで元気に参
加してください。